

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和7年10月22日（水）	調査場所	福井県福井市
委員	委員長 かねだ 正 副委員長 横 田 ゆ う 副委員長 さ の 智恵子 委員 吉 田 こうじ 委員 野 沢 てつや 委員 た だ 太 郎 委員 杉 本 ゆ う		

調査項目	男女共同参画の推進について
調査の目的	男女共同参画の研究として、福井市の男女共同参画の推進を調査する。
調査内容	<p>1 パパ育休100%チャレンジ宣言の概要 男性の育休取得率100%に挑戦する中小企業3社へコンサルタントを派遣し、男性が育休を取得しやすい企業内制度の構築と意識醸成を支援。支援内容には、収入減への不安解消、制度設計、業務が滞らない協力体制づくりなどが含まれる。</p> <p>2 プレパパ教室の概要 令和7年度からの新規事業。間もなくパパになる男性を対象としている。学習会では、出産による女性の身体的・精神的負担や育児休業制度、給付金について説明する。グループワークによる赤ちゃんのケア体験等を通じ、育児への参画を促している。</p> <p>3 WEB診断システム「Fukurea（フクリエ）」の概要 令和2年度末から運用。女性活躍やワークライフバランスなどの課題を可視化する企業向け無料行政サービス。課題可視化、信頼度測定、社員の思いを載せるWEBメディアの3サービスで、企業の働き方改革を無料で支援する。</p> <p>4 イキイキ働く女性発信事業の概要 令和6年度開始の事業。活躍する女性をInstagramやWEBメディアで取材し、キャリアやワークライフバランスについて発信。キャリアアップ意欲の向上や自己成長のきっかけづくりを目指している。</p>
主な質疑	<p>（問）「プレパパ教室」をあえて男性のみに特化している理由を伺う。 （答）女性がいると「女性が男性に教える」構図になりがちであるため、男性だけを集めて「何も知らなくて当然」という状況から、当事者意識の芽生えを促すことを目的としている。</p> <p>（問）企業支援システム「Fukurea」を、産業系所管ではなく女性活躍促進課が運営している理由を伺う。 （答）女性を切り口とすることで、女性だけでなく、男性や若年層、高齢者も含めた社員全体の働きやすさ向上につながるという視点を持っているため。</p> <p>（問）一般的に女性の就業率が高いと出生率が下がる傾向があるが、福井市ではどうか伺う。 （答）就業率が高い中でも出生率は維持できている。背景には、3世代同居や近居により、祖父母が送迎などを担う協力体制が残っていることがある。</p>
委員長所見・ 区政に活かせる点等	福井市は「女性活躍」の視点から全世代の働きやすさを高める支援や、男性の当事者意識を促す独自手法を講じており、行政サービスを成果軸で再構築する姿勢は、当区の事業見直しに大変参考となるものであった。

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和7年10月23日（木）	調査場所	岐阜県大垣市（現地視察：奥の細道むすびの地記念館）
委員	委員長 かねだ 正 副委員長 横 田 ゆ う 副委員長 さ の 智恵子 委員 吉 田 こうじ 委員 野 沢 てつや 委員 た だ 太 郎 委員 杉 本 ゆ う		

調査項目	奥の細道むすびの地記念館について
調査の目的	文化施設活用の研究のため、大垣市の奥の細道むすびの地記念館を調査する。
調査内容	<p>※以下の内容について施設（奥の細道むすびの地記念館）の見学を行った。</p> <p>1 奥の細道むすびの地記念館の概要と整備</p> <p>中心市街地では、松尾芭蕉が「奥の細道」の紀行を終えたむすびの地や水門川の船町川湊（かつての水上交通の拠点）など、水の文化が育まれてきた。しかし、近年のモータリゼーションの進展や郊外型大規模店舗の立地により、大垣駅を中心とする市街地の魅力が薄れ、拠点性が低下していた。</p> <p>こうした状況の中、平成20年の市制施行90周年を機に、中心市街地の活性化や市内外からの来訪者増加を目指し、「むすびの地周辺を憩いとにぎわいの空間とする」ことを柱として、平成24年4月に開館した。</p> <p>本記念館は、文学的価値の継承にとどまらず、歴史資源と水辺空間を活かしたまちづくりの核として位置づけられており、回遊性の向上や滞在時間の延伸を通じて、中心市街地全体の活性化に寄与している。また、観光と市民利用の両立を図る拠点として、世代を超えた交流の場ともなっている。</p> <p>2 施設概要</p> <p>（1）鉄筋コンクリート造2階建</p> <p>（2）芭蕉館、先賢館、観光・交流館の3館で構成</p> <p>（3）延べ床面積は約2,300平方メートル</p> <p>（4）建設費：約7億9,000万円（建築主体） 展示経費：約5億円 周辺整備等を含む総事業費：約40億円</p> <p>（5）入場者数：約16万9,000人（令和6年度） 施設は展示機能に加え、観光案内や休憩、交流機能を備えており、来訪者がまちへ回遊する起点としての役割も担っている。</p> <p>3 集客の取り組みと観光振興</p> <p>（1）大垣観光協会と連携し、SNSや観光情報誌等で情報発信を行っている。</p> <p>（2）他自治体を招いた芭蕉祭や企画展、イベントを開催。</p> <p>（3）足立区のあだち区民まつりを含む交流都市のイベントに出展。</p> <p>（4）市内小学5年生が社会見学として記念館を訪問するプログラムがある。</p> <p>これらの取り組みにより、観光客だけでなく市民の利用促進や郷土理解の深化が図られ、教育・観光・交流を一体的に進める拠点としての役割を果たしている。</p>

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査年月日	令和7年10月24日（金）	調査場所	愛知県春日井市
委員	委員長 かねだ 正 副委員長 横 田 ゆ う 副委員長 さ の 智恵子 委員 吉 田 こうじ 委員 野 沢 てつや 委員 た だ 太 郎 委員 杉 本 ゆ う		

調査項目	グループふじとうについて
調査の目的	廃校を利活用した公共施設を核とする多世代交流拠点の運営と、地域住民による参画を研究するため、春日井市のグループふじとうを調査する。
調査内容	<p>1 施設の概要</p> <p>高蔵寺ニュータウンの旧藤山台東小学校を再生し、2018年に開設された「グループふじとう」は、施設名である「グループ（集まり）」の名の通り、多世代交流拠点として地域住民の交流を促進している。施設内には、児童館、地域包括支援センター、図書館、学習室などを配置している。「0歳から100歳まで」を掲げ、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる場となっており、地域住民が主体的に関わる持続可能なまちづくりの核として機能している。</p> <p>2 現状と課題</p> <p>コロナ禍後、来館者は順調に回復し、令和6年度には累計約52万人に達する。利用者満足度も高く、約150名の地域住民サポーターが活動を支援している。しかし、最寄り駅やバス停からのアクセス改善と、物価高騰によるカフェの価格への不満が課題となっている。</p> <p>3 今後の方向性</p> <p>今後は、子育て世代の転入を促すUターンプロモーションを推進し、ニュータウン全体で5,000人の転入を目指す。URの団地再生事業と連携し、住環境の多様化を進め、地域課題解決型のまちづくりを推進していく。</p>
主な質疑	<p>（問）地域住民サポーター（無償ボランティア）の活動分野と年齢層を伺う。</p> <p>（答）図書館での本の整理、施設の花壇の手入れ、児童館での子どもの遊び相手、間伐作業など幅広く、学生、定年されたばかりの60代、70代のサポーターが多い。</p> <p>（問）施設内での連携について伺う。</p> <p>（答）児童図書の一部を児童館の隣に配置して、親子が気軽に本に触れられる工夫をしている。体育館は利用料金制であるが、児童館と連携して夕方だけは児童館は無料開放している。</p> <p>（問）施設整備と図書館機能について伺う。</p> <p>（答）3階は整備費用を抑えるため、旧教室のまま残している。図書館の蔵書数は18万冊だが、学校用の耐荷重のため、本を入れすぎて耐荷重を超えないようにすることが設計上の苦勞した点である。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	旧小学校ストック活用と機能集約により多世代交流の拠点として機能している。約150名のサポーターが運営に参画する仕組みは、行政コスト抑制と住民の「担い手」育成に寄与しており、当区の施設再編・地域参画モデルとして参考となる。